

# SUSTAINABILITY REPORT 2025

三本珈琲サステナビリティレポート



**MITSUMOTO COFFEE**

## コーヒーを、どこまでも。



MITSUMOTO  
COFFEE

### 関わるすべてのひとに、ちょっとした幸せを。

近年、世界は大きな変化と可能性に満ちた時代を迎えています。

コーヒーの原材料調達には国際情勢の影響は避けられず、主要生産国における政情不安や物流の混乱が安定供給に大きな影響を及ぼすだけでなく、世界的なコーヒー豆の価格高騰や円安の影響により原材料費の上昇など難しい状況が続いています。

気候変動による影響も大きく、生産地の気温上昇や降雨パターンの変化は、コーヒー豆の品質や収穫量に深刻な懸念をもたらしています。

一方、日本のコーヒー消費量は世界4位(2023年)を維持しており、嗜好飲料のトップシェアを持つコーヒーを取り扱うメーカーとしての供給責任を果たすべく、高品質かつ価格競争力の高い製品で多様化する顧客ニーズに丁寧に応えることを重視し経営に臨んできました。

コーヒー業界においては、いわゆる「コーヒー2050年問題」が注目される中、社会課題に真摯に向き合い、環境・社会への配慮を経営戦略における重点領域と位置づけて取り組むことは、当社の持続的成長にとって不可欠な選択であると考えております。

当社では、2021年にサステナビリティ推進室を設置して地域に根差した具体的なサステナビリティ活動を展開し、その土台を創設以降地道に構築してまいりました。

今期この活動は新たなステージに入り、多様なステークホルダーとの共創による持続的な関係構築、あるいは社員の主体的な参画を通じた従業員エンゲージメントの向上に多くの実績を挙げました。

これらの取り組みの深化には、コーヒーが持つ可能性が極めて大きな影響を及ぼしており、私たちは、このコーヒー産業の変革期における舵取りの在り方が、当社に新たなビジネス機会の創出とサステナビリティ分野への貢献を実現する重要な契機となると認識しております。

今後も、経営層の確固たるリーダーシップのもと、これらの取り組みを力強く推進し、当社の持ち味を最大限に活かした独創的な活動により持続可能な社会の実現と企業価値の最大化を両立し、変動する社会環境下にあっても常に価値を発揮し続ける企業を目指してまいります。



三本珈琲株式会社  
代表取締役 山本 聡

ピックアップ 3・4

編集方針 5

サステナビリティ推進体制 6

三本珈琲のステークホルダー 6

三本珈琲のマテリアリティ・マテリアリティ分類 7・8

プロジェクト 9・10

活動実績 11～

マテリアリティ1 「環境への取り組み」 11～15

マテリアリティ2 「社会への貢献」 16・17

マテリアリティ3 「GRC」 18

あとがき 19

想い 20



PICK UP  
ピックアップ



## あきたSDGsアワード2024受賞しました！



SDGs達成に向けて優れた取組を行う企業等を表彰する「あきたSDGsアワード2024」にて、当社の取組が表彰されました。

取組の詳細は下記よりご覧いただけます。



「食品ロス削減と学校給食支援で  
「ちょっとした幸せ」を世界中のみんな  
に届ける！～秋田から地域へ  
→地域から地球へ！～つなげて広げる  
国際貢献」

地域に根差し、パートナーシップを活かした活動を今後も継続してまいります。

PICK UP  
ピックアップ



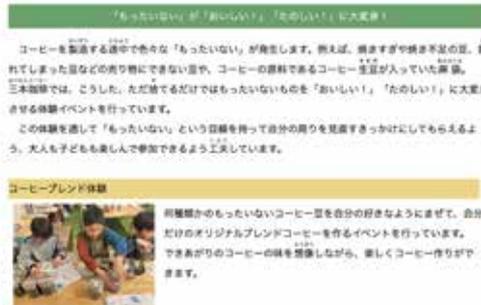
農林水産省の公式サイトに弊社の取り組みが紹介されています！



公式サイトは  
こちらから！



農林水産省SDGs×食品産業こどもページにも事例が掲載されています！



公式サイトは  
こちらから！



コーヒー  
メーカー  
初！

農林水産省が運営するニッポンフードシフトの  
公式noteに当社の取り組みが紹介されました！

公式サイトは  
こちらから！



Vol. 1

一粒のコーヒーからはじまる  
持続可能な世界の輪 [Vol.1]  
ニッポンフードシフト公式note



Vol. 2

一粒のコーヒーからはじまる  
持続可能な世界の輪 [Vol.2]  
ニッポンフードシフト公式note



Vol. 3

一粒のコーヒーからはじまる  
持続可能な世界の輪 [Vol.3]  
ニッポンフードシフト公式note

本レポートは、三本珈琲株式会社製造部門の  
社会のサステナビリティへの貢献を  
ステークホルダの皆様にはわかりやすく伝える目的で  
作成しています。

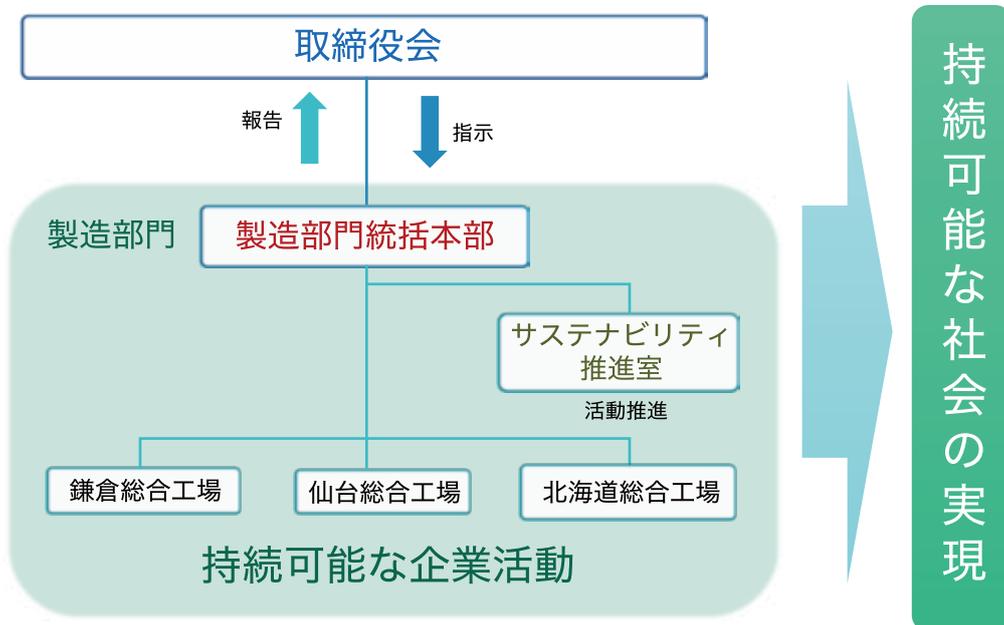
報告対象範囲	三本珈琲株式会社製造部門
報告対象期間	2024年4月～2025年3月
報告目的	・取り組みの現状把握 ・取り組みの継続的改善 ・利害関係者への活動状況報告
報告頻度	1回/年(次回発行予定:2026年9月)
参考とした ガイドライン	GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」、 SDGコンパス



三本珈琲株式会社は、鎌倉総合工場、仙台総合工場、北海道総合工場の3つの生産工場を有しており、製造部門を形成しています。

サステナビリティ推進室は製造部門を統括する製造部門統括本部内に設置され、製造部門統括本部長が最高責任者となって、三本珈琲のサステナビリティ活動を推進しています。推進状況はサステナビリティ推進室から製造部門統括本部長を通して本社取締役会に報告され、審議されます。

取締役会の審議結果は製造部門統括本部長からサステナビリティ推進室にフィードバックされる仕組みを取っており、当社のサステナビリティ活動は常に経営層の意思・方針となることを確実にしています。



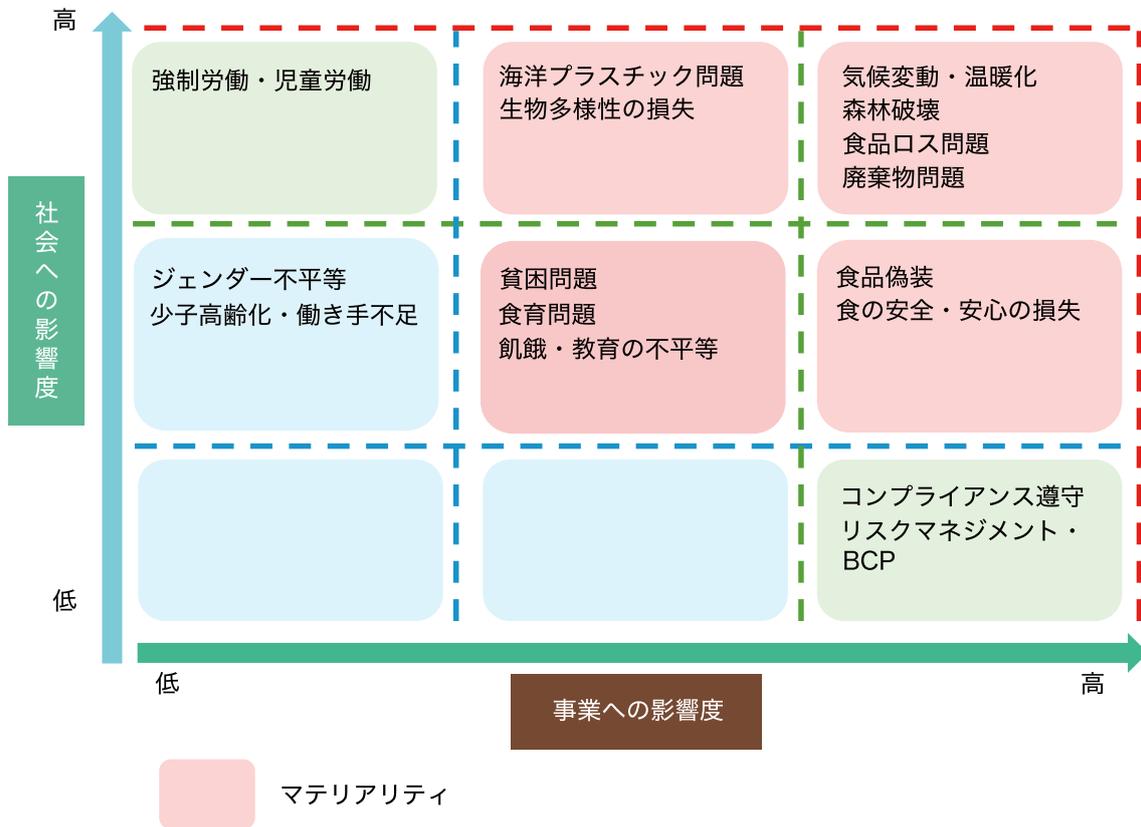
STAKEHOLDERS OF MITSUMOTO COFFEE

三本珈琲のステークホルダー

三本珈琲株式会社は、ステークホルダーを以下の通り特定し、効果的なコミュニケーションに取り組んでいます。

ステークホルダー	コミュニケーション(頻度)
お客様	営業活動(随時)
取引先/業務委託先	購買活動/取引(随時)、定期監査(1回/年)
消費者	販促物(随時)
地域住民	説明会(随時)、災害時の支援(随時)
行政機関	各種申請・更新(随時)、講習会・説明会への参加(随時)
従業員	個人面談(2回/年)、コンプライアンス窓口の設置(随時) 目安箱の設置(随時)

三本珈琲はBtoB領域を強みに成長してきましたが、近年BtoC領域にも力を注いでいます。三本珈琲では「社会への影響度」及び「事業への影響度」を考慮し下記の通り重要課題（以下、マテリアリティ）と位置づけ取り組んでいます。



※三本珈琲のマテリアリティは、社会への影響度、事業への影響度のどちらも「高」と評価されるか、どちらかが「高」でどちらかが「中」、及びどちらも「中」と評価されたものとしています。



三本珈琲のマテリアリティは「環境への取り組み」、「社会への貢献」および「ガバナンス・リスク・コンプライアンス(GRC)」に分類して管理しています。それぞれの具体的な取り組み、目標及び対応する持続可能な開発目標(以下、SDGs)を以下の通り決定しています。

## Sustainable Development Goals

SDGsとは…

持続可能な開発目標(SDGs)とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くために2015年の国連サミットで採択された世界中のみんなで取り組む17の目標のことで、SDGsの目標は相互に関連しており、誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。三本珈琲は、これらへの貢献を宣言し、組織の重点課題と紐づけて取り組んでいます。



### マテリアリティのカテゴリ分類【2025年3月現在】

マテリアリティ	具体的な取り組み	目標	SDGs	
環境への取り組み	気候変動・温暖化	CO <sub>2</sub> 削減 ①太陽光パネルの設置により再生可能エネルギーを使用 ②照明LED化による電力消費量削減	2030年までに製造活動により排出されるCO <sub>2</sub> をCO <sub>2</sub> 排出原単位で2018年度比30%削減	
	森林破壊	環境にやさしい工夫のある段ボールの積極利用	2030年までに100%の段ボールを環境にやさしい工夫のある製品に切り替える	
	海洋プラスチック汚染問題	プラスチック製品使用量の削減 包材材質の紙転換	2030年までに50%の一杯抽出型ドリップコーヒー包材材質を紙素材に切り替える。	
	生物多様性の損失	レインフォレスト・アライアンス認証農園産生豆の積極利用	—	
	食品ロス問題	①全員参加型食品ロス削減推進モデルの運用 ②フードバンク等への寄付	2030年までに2021年度からの累計で300トンの食品ロス削減	
	廃棄物問題	未利用資源の新規用途開発・チャフ(シルバースキン) ①牧場等での床敷等による活用 ②食品への応用の研究 ③バイオマス燃料としての用途探求・麻袋農家・動物園での再利用	2030年までに製造工場から排出される廃棄物をゼロにする。	
社会への貢献	貧困問題	フードバンク等への寄付	—	
	飢餓・教育の不平等	国連WFPレッドカップキャンペーン参加	2030年までに国連WFPへの寄付額を2022年度比で200%にする	
	食育問題	コーヒーセミナー、子供SDGsセミナーの開催	子どもSDGsセミナーの継続開催	
GRC	食品偽装/食の安全・安心の損失	FSSC22000の効果的な運用	継続的改善システムを維持更新し続ける	

# 一杯のコーヒーで、子ども 学校給食で

ーサンシャイン



1 コーヒーの産地国の多くが  
飢餓と貧困で困っています。

コーヒーの産地国の多くが慢性的飢餓に苦しんでいます。



2 学校給食を支援することで  
救える命があります。  
叶えられる夢があります。

- 栄養状態や健康が改善されます。
- 出席率が上がり、  
子ども達の知識レベルが上がります。
- 新しい技術が生まれ  
産業が発展します。
- 国が豊かになります。



子どもたちに  
光ある未来が開かれます。



3 レッドカップキャンペーンは  
国連WFPを通じて  
途上国の学校給食を支援します。



学校給食支援実施国: 61か国  
(2023年)

学校給食支援を受けている  
子ども達: 2,140万人以上  
(2023年)



# たちの未来に光を照らそう!

# 未来を創る!

## コーヒープロジェクト

公式サイトはこちらから!



SUNSHINE  
COFFEE PROJECT



国連WFPの  
レッドカップキャンペーン



## 応援ありがとう!

### SUNSHINE COFFEE PROJECT 2024 実績報告

2024年度寄付金額

# 4,583,818円

学校給食

# 152,794食



SUNSHINE  
COFFEE  
PROJECT



2022年から始まった三本珈琲の「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は、賛同企業全員で国連WFP協会が実施する「レッドカップキャンペーン」を応援する取組みで、対象商品の売上の一部は途上国の学校給食支援に寄付されています。

2024年度はおかげさまで4,583,818円を寄付し、この寄付で学校給食約15万食が途上国に届けられました。これからも「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は賛同企業の皆様とともに、学校給食で子どもたちの未来を照らし、コーヒーで世界を彩ることを願って活動を続けて参ります。

三本珈琲  
サンシャインブレンド  
業務用コーヒー

三本珈琲  
サンシャインブレンド  
ドリップトップ  
コーヒー



## 4

三本珈琲は2022年5月より「SUNSHINE COFFEE PROJECT」を発足し、本プロジェクトへの参加を通してより多くの企業がレッドカップキャンペーンを支援できる取り組みを実施しています。

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」参加企業は三本珈琲のレッドカップキャンペーン製品を購入し、その売上の一部はプロジェクトを通して国連WFP協会に寄付されます。

SUNSHINE COFFEE PROJECT

賛同企業



売上の一部を  
寄付

学校給食  
支援



途上国の  
子どもたち

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は、  
学校給食支援を通して、  
地球を照らす太陽の光のように、  
世界中のこどもの笑顔と  
未来をはぐくむ取り組みです。

PayPay

ペイペイで  
寄付ができるように  
なりました



## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：気候変動・温暖化

【目標】2030年までに製造活動により排出されるCO<sub>2</sub>をCO<sub>2</sub>排出原単位で2018年度比30%削減。



### ① 再生可能エネルギーを使用した生産活動

工場に太陽光パネルを設置し、製造活動に使用する電力の一部を再生可能エネルギーで賄い、CO<sub>2</sub>を削減しています。



### ② 照明LED化による電力消費量削減

●3工場すべて場内のすべての照明をLEDに切り替え済み。



2024年度 電力由来CO<sub>2</sub>排出原単位削減実績(%)

-29%

目標の修正：あり

来年度以降の設備投資計画により更なる削減が見込まれるため、2030年までの目標値を30%→35%削減に引き上げる。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：森林破壊



【目標】2030年までに100%の段ボールを環境にやさしい工夫のある製品に切り替える

【2024年度実績】

製造工場名	環境にやさしい工夫のある製品への切り替え率(%)	2024年度実績
鎌倉総合工場	92%	<b>93%</b> (3工場合計実績)
仙台総合工場	96%	
北海道総合工場	85%	

環境にやさしい工夫のある製品への切り替え目標(%)



目標の修正：あり

特定の認証に限らない環境への工夫を取り入れた段ボールへの100%切り替えを2030年までに達成することを目標とする。

課題：海洋プラスチック問題



【目標】2030年までに50%の1杯抽出型ドリップコーヒー包材材質を紙素材に切替える。

### ● プラスチック製品使用量の削減：包材材質の紙転換



【2024年度実績：1杯抽出型ドリップコーヒー包材の紙切り替え率】

プラスチック削減量 (Kg)※	切り替え率
9,057kg	65%

※一杯抽出型ドリップトップコーヒー1個当たり0.96gのプラスチックを削減するとして算出

目標の修正：なし

DT紙包材の削減目標は達成しており、今後はこの水準を維持しつつ、新たな削減策の策定を検討する。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：生物多様性の損失



### ● 環境保全型認証農園産生豆の積極利用

#### 取り扱い認証各種



レインフォレスト・アライアンス認証—人と自然により良い未来。[www.rainforest-alliance.org/ja](http://www.rainforest-alliance.org/ja)



有機JAS



国際フェアトレード認証

2024年度 製品に占める認証製品の割合

11%



目標の修正：なし

顧客要求の高まりから認証製品の製造は増加傾向にある。原料リスクに備え計画的調達を引き続き行う。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：食品ロス削減

【目標】2030年までに2021年度からの累計で300トンの食品ロス削減。



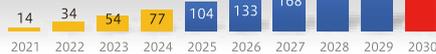
2024年度 食品ロス削減数量

2021年度からの累積

約23t

約77t

2030年までに300トン達成!



### ① 全員参加型食品ロス削減推進モデルの継続的活動

2021年から販売を開始した、コーヒーの製造時に発生する食品ロスを活用して作られる「三本珈琲オリジナルブレンド」。その売上金の一部は社会貢献活動に使用されます。2023年度も、これまで実施してきたフードバンク等への寄付の他、啓発活動も関係各所との連携を活かして行われました。



スーパーなどで賞味期限の迫った食品を社会貢献活動費用で買い取り必要な先に寄付したり、運営資金を寄付するなど様々な寄付実績があります。

### ② 各種メディアでの発信

- ・農林水産省SDGs×食品産業
- ・農林水産省SDGs×食品産業こどもページ
- ・ニッポンフードシフト公式note
- ・ニュースウィーク日本版



- ・一粒のコーヒーからはじまる持続可能な世界の輪 [Vol.1]
- ・一粒のコーヒーからはじまる持続可能な世界の輪 [Vol.2]
- ・一粒のコーヒーからはじまる持続可能な世界の輪 [Vol.3]
- ・ニッポンフードシフト公式note



### 受賞歴



2022年  
公益財団法人食品等流通合理化促進機構  
「食品産業もったいない大賞」  
審査委員会審査委員長賞

2021年  
消費者庁主催  
「食品ロス削減推進大賞」  
審査委員会委員長賞



目標の修正：なし

引き続き本モデルの推進に取り組み、社会貢献活動を推進する。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：廃棄物問題

【目標】2030年までに製造工場から排出される廃棄物をゼロにする。



### ● 植物性廃棄物の有効利用

#### ① シルバースキン(チャフ)の活用

コーヒー焙煎時に発生するコーヒー豆の薄皮、シルバースキン(チャフ)は、軽くてふわふわのクッションのように溜まります。その量は月間で2トン以上発生し、ほとんどが捨てられています。三本珈琲では工場近隣の動物園や農家などと連携し、動物の床じき等その活用をすすめています。活用方法の中でも、特に重要だと考えているのは「食利用」で、もともとはコーヒーという食品の一部であったこの素材を余すことなく食べきることで食料不足の未来に備えます。シルバースキンは食物繊維やポリフェノールが豊富で、食べると独特の渋みや食感が特徴です。パンや焼き菓子に混ぜるなど、様々な食べ方を検討しています。



シルバースキン(チャフ)

エネルギーとしての利用

パートナーでの有効利用

新規食品素材としての利用

2024年度 再利用率

59.2%



写真提供:横浜市立金沢自然動物園



シルバースキン  
焼きチョコレートは  
サクサクで  
とても美味しい



#### ② 麻袋の再利用

コーヒー生豆が入っている麻袋は、農家や動物園で様々な用途で活用されています。



麻袋バックペイントや  
小物制作は人気



目標の修正：なし

引き続きパートナー企業と連携のもと未利用資源活用を推進し、2030年までに工場からの廃棄物をゼロを目指す。

## マテリアリティ2 「社会への貢献」

課題：食育問題

【目標】SDGsセミナーの継続開催。



未来を担う子供たちに、  
光り輝く未来創りをバトンタッチ！

【2024年度実績】



総件数

24件



目標の修正：なし

コーヒーを起点とした啓発活動を活動の中心に置き、特に子ども対象の体験型セミナーの積極開催を継続する。

## マテリアリティ2 「社会への貢献」

課題：貧困問題

【目標】フードバンク等への寄付活動に引き続き取り組む。



誰一人取り残さない笑顔溢れる社会を目指して、  
三本珈琲はフードバンクを通じて、  
積極的に社会貢献に努めています。

【フードバンク等への寄付実績】



秋田県内6カ所の  
社会福祉協議会へ寄付

2024年度 実績

10,729kg

※2021年4月～2025年3月

## もったいないコーヒーで地域を支援!

喫茶こともし(運営:合同会社RaShiSa)は、札幌市中央区にある高校生以下の子どもたちが無料で利用できる喫茶店です。大学生以上の大人の飲食代の20%が子どもたちのドリンク代として還元されるため、喫茶店を利用するだけで子どもにおせっかい(子どもたちのサードプレイスを支えること)ができます。



三本珈琲  
北海道総合工場で  
発生する規格外品や  
品質試験後の  
コーヒー豆は、  
喫茶こともしに  
無償で提供しています。

リピートしてくださるお客様が多く、安定して珈琲を提供することができています。また、子どもたちにも珈琲を好む子がおり提供させていただいています。この2025年5月で2周年を迎えたこともしですが、三本さんの珈琲の提供がなかったら私達は運営することができておりません。今では子どもたちの居場所となり、大人や社会との接点ともなっていて、多くの出会いを提供することができています。子どもたちが、このおせっかいを「ありがたみ」に感じるのは、まだ先のこともかもしれませんが、そこには三本珈琲さんをはじめとする、たくさんの方のご支援があってこそ続けていけますので、今後ともよろしく願いいたします!本当にいつもありがとうございます!!!

喫茶こともしの  
皆様から  
三本珈琲へ  
メッセージ

コーヒーや啓発イベントに関するご相談、随時受付中!

## マテリアリティ3 「GRC」

課題：食品偽装/食の安全・安心の損失

【目標】継続的改善システムを維持更新し続ける。



### ● FSSC22000の効果的な運用

鎌倉総合工場、仙台総合工場では食品安全のグローバル認証であるFSSC22000を取得し、システムの継続的改善に取り組んでいます。



鎌倉総合工場



仙台総合工場

目標の修正：なし

利害関係者のニーズに応えながら安全・安心な製品の安定製造・安定供給を継続的に実現するため、引き続き食品安全マネジメントシステムの向上に取り組んでいく。





# SDGs

Sustainable Development Goals

2024年度で当社にサステナビリティ推進室が設置されて4年になりました。

サステナビリティ活動は着実に範囲を広げて、今期もパートナーシップにより新たな取組の機会を多くいただきました。様々な主体とそれぞれの強みや良さを活かして連携できることが最も重要であり、双方にとって持続可能な形であることに特に注意して取り組んできました。今期は当社秋田支店の災害ボランティアセンターへのコーヒーの寄付やレッドカップキャンペーン対象商品の普及を目的とした「SUNSHINE COFFEE PROJECT」の取組が評価され、あきたSDGsアワード2024をいただきました。

また、立ち上げから当社が支援している子どもの居場所づくりカフェ「喫茶こともし」も新たなフェーズに突入り、カフェを利用していた高校生や学生スタッフだった若者が、運営側に回って今度は自分たちと同じような地域の子どもの居場所創出に携わる、理想的な循環が生まれています。

サステナビリティ活動に日々向き合う中で、企業として重要なのは内外の持続可能性を軸にした事業経営ですが、その推進の基礎となるのは具体的な活動を如何に多く生み出すことができるのか、具体的であることが非常に重要であると理解しています。

具体的であるためには、足し引きで相殺するような見かけ上の実績に理屈をこねることよりも、小さなことでも今すぐ実行すること、そのような動きを1つでも多く生み出すことであって、地域で行う具体的な啓発活動をととても大事にしています。

多様な主体が得意を活かして大目標に向かうにあたり、当社の強みは柔軟性とスピード感で生み出す小さな循環の創出力です。これにブレずに実直に向き合い、小さなシャボン玉がたくさん集まってその境界がはじけた時、大きな一つのシャボン玉になるような未来を描いて、今後も活動してまいります。

三本珈琲株式会社  
サステナビリティ推進室  
正木陽子



## 彩りあふれる世界のために

私たちの普段の生活のなかに、  
自分以外の誰かのために  
つながることは沢山あります。

私たちの事業活動にも、  
多くの可能性が潜んでいて  
コーヒー豆を生産する海外の農園から、  
世界中の食卓で湯気をたてるカップ一杯のコーヒーまで、  
それぞれの「手」に込められた想いをつないでいくことが  
コーヒーに関わる企業としての  
私たちの重要な役割の一つだと考えています。

「誰ひとり取り残さない」社会のために、  
小さくても何かできることをしたい。  
そのために、これまでのあたりまえを、  
信念を持って、変えていく。  
未来のために、続けていく。

「MITSUMOTO COFFEE SUSTAINABLE PROJECT」は、  
持続可能な世界のために、  
一粒のコーヒーでつながる想いを未来につなぐ  
私たちの小さくても確かな一歩です。



**MITSUMOTO COFFEE**



MITSUMOTO  
COFFEE  
SUSTAINABLE  
PROJECT

持続可能な世界を、  
一粒のコーヒーから。







持続可能な世界を、一粒のコーヒーから。



**MITSUMOTO COFFEE**